

第68回高知県母親大会

# グローバル時代を待ってくれた！日本国憲法前文を力に！ 「きな臭さが募れば募るほど平和主義に徹しよう！」

今年は4年ぶりに午前に分科会、午後に全体会と1日を通しての開催でした。全体会は本会場には144名が参加し、オンラインで県下各地域にも配信されました。



講演は浜矩子さん（同志社大学名誉顧問）の「ズバツと語る 日本軍の軍事費とどうなるの？」をテーマに東京からのオンライン講演でした。歯切れのよいテンポで現在の危険な岸田政権を分析。「岸田文雄は何男？」に対して「万事アホ（安倍）ノミクス頼みのアホダミクス男」また「大軍拡も異次元の少子化対策も行き当たりばったりの『フナ侍男』」から「ふら」と信念のないリーダー程怖いものはない。「大軍拡の財源論に惑わされず、財源確保の裏で何が削られ犠牲になるのかを注視すべき。」

日本国憲法の前文は現在の混沌とした世界状況に對して待ち構えていた先見性



のある内容だ。特に3カ所は重要。「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることがないようにすることを決意する」「日本国民は平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」「我々はいずれの国家も自国のことのみを専念して、他国を無視し

てはならない」。この素晴らしい前文を力にしようと呼びかけられました。分科会は8つのテーマで開催され、158人が参加し、子どもの問題、障がい児・者のこと、平和、食の安全、インボイスや働き方の問題、また、浴衣の着付けもありました。見学分科会では高知県の母親運動の原点ともいえる、子どもたちの学習保障のために要求し、実現した片岡の沈下橋の見学もありました。各分科会の申し合わせ事項に基づいて県との話し合が後日もたれます。日本母親大会は11月25日・26日、山口県山口市です。（川村喜美）

## おだやかな老後は来るの？

高知市母親大会

第62回高知市母親大会が6月4日、こうち男女共同参画センター「ソレイ」で行われました。今年も午前のみで、4つのグループワークと1つの野外活動がありました。グループワークは①コロナ禍の子どもたち、②不自由さの中で、

な体）予防をしましよ！健康チェック（栄養・運動）とおすすりめ予防治療の実技、でし。野外活動は「森のようちえんで遊ぼう！」と題してアジロ山で親子で参加し、自然の中で楽しく体験活動を行いました。好評で続いている取り組みです。

県内では2万人が対象。来年4月からは収入に応じた保険料の更なる引き上げが予定されています。後期高齢者の医療保険料増は生活不安を増すとともに、少子化対策とセットで立案され、子育て支援とそうでない人の溝を作らなければならない。介護保険料は導入当初は高知市の個人負担は3137円でしたが、5936円とまきに2倍近くになっていて現状の説明に、今更ながら驚きの声があがりました。参加者から、高知市は介護保険料の基金があるのでこの基金を使って市民に保険料を還元する政策をとってほしいとの議論がありました。国保料も基金があるとのこと、同様に還元してほしいとの声がありました。

③の参加者は29名。協力者の岡村和彦さん（高知県社会保険推進協議会事務局長）によるミニ講演があり、質疑応答や話し合いが行われました。岡村さんは、医療保険、介護保険、アフターコロナ下の医療供給体制について、現状や課題を説明。国保料が高くなっている最大の原因は国庫負担の削減で、かつて45%だった医療費に対する国庫負担率は30%程度に引き下げられ、1兆円が削減されたそうで、個人負担が増えています。後期高齢者医療保険は、昨年の10月から「単身世帯で年収200万円以上、夫婦とも75歳以上の世帯で年収320万円以上」の方が対象で、医療費窓口負担が2割となりました。

防衛予算の増大の下での社会保障費の削減計画や国民負担率の上昇には、腹立たしい思いがします。私たちの生活、いのち・くらしを守るために、福祉・社会保障に予算をつけてほしいと願います。（宮地由美）

生きること・学ぶこと、②平和・憲法を未来に渡そうと戦争ではなく平和の準備のために今私達のすべきこと！、③今の社会保障でおだやかな老後は来るの？とつても心配、医療・介護・アフターコロナなど、④フレイル（虚弱